



下川町の皆さんはじめまして。

4月1日から町立下川病院の外科を担当しています花房徹児です。

昭和49年に医者になり、おもに関西の病院で外科医とし、いわゆる「切り屋」として過ごしました。分野としては消化器外科と小児外科を主な仕事にして、手術に明け暮れる日々で、まれたての新生児から10歳の方まで年齢に関わらず、手術治療が必要な場合

は手術してきました。消化器外科医としては食道から直腸までの消化管を担当しました。小児外科医として一つの県の新生児の全手術を若い先生と2人でこなしていたこともありました。



65歳で大阪赤十字病院を定年退職し、40年にわたった外科医生活に区切りをつけ、5年前に北海道にやってきました。

学生時代に幾度か北海道を旅行したり、夏季に大雪山の監視員のアルバイトを一ヶ月間したりする中で、北海道の風景の広大さ、大雪山の雄大さに惹かれ、一度は北海道で暮らしてみたいの思いがありました。が、定年になりやつと実現

しました。

道庁のお世話で、十勝の広尾町立国民保健病院で外科医として過ごしましたが、脱腸、痔の手術以外の手術はほとんどなく、切り屋から「切らない外科医」への脱皮でした。ここでは趣味にしている蝶の写真を撮ったりし、十勝の自然を十分に楽しみました。もちろん大雪山にも毎年登っていました。

70歳で二度目の定年退職を迎え、京都に戻ろうかとも思いましたが、まだ元気なので、場所を変えて別の北海道を過ごしてみようと、下川町にやって来ました。林業と農業の町と聞いていますので新しい経験ができそうに楽しみです。



町立下川病院では外科を担当しますが、手術は15年以上さされてない様です。で、手術が必要な患者さんは名寄なり旭川札幌の病院を紹介することになります。切らない外科医としていろいろな外科疾患の相談をうけますので、胃、大腸などの病気で手術を勧められたというときや、肛門の様子が変わり、何かでている、痛みがあるようなときは気軽に受診してください。



小児外科は、生まれたてから15歳までの子どものための外科で、産まれてすぐ手術が必要な重い病気もあります。普通に見られる、でべそ、脱腸のような病気や、お尻を痛がったりする肛門の病気など気軽に相談に来てください。



下川町にはヒメギフチョウという小型のアゲハ蝶がたくさんいると聞いています。ゴールデンウィークの時期エゾノリュウキンカの蜜を吸っている姿を見るのが今から楽しみです。

お問い合わせ

町立下川病院

☎・☆4-2039

